

CASBEE[®]-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社クボタ堺製造所 C-7棟	階数	地上7F、塔屋1F
建設地	大阪府堺市堺区石津北町64番地	構造	S造
用途地域	工業地域、法22条地域	平均居住人員	2,360 人
気候区分		年間使用時間	1,620 時間/年
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年12月 予定	評価の実施日	2015年5月8日
敷地面積	136,593 m ²	作成者	株式会社 大建設 菅野尚教
建築面積	2,190 m ²	確認日	2014年7月10日
延床面積	10,086 m ²	確認者	株式会社 大建設 菅野尚教



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.5 ★★★★★☆</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>☆☆☆☆☆</p> <p>標準計算</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質 Qのスコア = 3.0</p>		
<p>Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.1</p>	<p>Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.4</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 2.7</p>
<p>LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.6</p>		
<p>LR1 エネルギー LR1のスコア = 4.2</p>	<p>LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.2</p>	<p>LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.2</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>環境に配慮した計画を目標に掲げ、工場従業員の工場、事務所及び食堂の機能を集約した厚生施設として計画を行っている。</p>	<p>その他</p> <p>0</p>	
<p>Q1 室内環境</p> <p>南面窓には遮熱効果の高いガラスを採用し、空調負荷の低減に配慮すると共に、制御機能の高い照明を使用することで省エネルギー化に努めた計画としている。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>執務スペースを大きく取り、リフレッシュスペースを設けるなど、従業員の執務環境に配慮した計画としている。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>可能な限り屋上緑化計画を行い、建築設備に伴う排熱を全て屋上に設けることで敷地内温熱環境の向上に寄与した計画としている。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>断熱性能の高い外壁材を用いると共に、省エネルギー機器を採用することで、熱負荷の低減に配慮した計画としている。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>省水型機器を採用することで水資源を有効活用し、有害物質を含まない材料を用いるなどの計画を行っている。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>可能な限り周辺地域・環境に対しての影響を低減し、雨水流出抑制の計画も行っている。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



1. 建物概要	建物名称	株式会社クボタ堺製造所 C-7棟		BEE	BEEランク 1.5 A
	建設地	堺市堺区石津北町64番地			
	主用途/延床面積	工場	10,085.97 m ²		

2. 重点項目への取組み

重点項目	評価点	取組み度
CO ₂ 削減	4	● ● ● ● ●
省エネ対策	4	● ● ● ● ●
みどり・ヒートアイランド対策	2	● ● ● ● ●
安全快適な暮らし	3	● ● ● ● ●

再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	○	風力	-	地熱	-		
	太陽熱利用	-	水力	-	バイオマス	-		

3. 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

CO ₂ 削減	評価項目		スコア	評価点
地球温暖化への配慮	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価値		3.6	4
省エネ対策	評価項目		スコア	評価点
外皮性能	CASBEE「Q1-2 2.1.2」のスコア による評価値	建物全体	4.0	4
		住居・宿泊部分	0.0	
建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価値		5.0	
自然エネルギーの利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価値		3.0	
設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価値		4.6	
効率的運用(集合住宅は対象外)	CASBEE「LR1-4」のスコアによる評価値		4.0	
水資源保護	CASBEE「LR2-1」のスコアによる評価値		3.3	
みどり・ヒートアイランド対策	評価項目		スコア	評価点
生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価値		2.0	2
敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3.2」のスコアによる評価値		3.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2.2」のスコアによる評価値		2.0	
安全快適な暮らし	評価項目		スコア	評価点
バリアフリー計画	CASBEE「Q2-1 1.1.3」のスコアによる評価値		4.0	3
耐震・免震	CASBEE「Q2-2 2.1」のスコアによる評価値		3.0	
地域性への配慮、快適性の向上	CASBEE「Q3-3 3.1」のスコアによる評価値		2.0	
交通負荷抑制	CASBEE「LR3-2 2.3.3」のスコアによる評価値		5.0	

4. その他

技術の名称	考慮事項
特に配慮した事項	